

OWN



©Alfonso Batalla

2014年
12/14 (日) 19:00
サントリーホール
Sunday, December 14, 2014 at 7 p.m.
Suntory Hall

イーヴォ・ポゴレリッチ

LICH

リスト: 巡礼の年第2年「イタリア」から ダンテを読んで(ソナタ風幻想曲)
Liszt: "Après une lecture du Dante" from *Années de pèlerinage Deuxième année: Italie*

シューマン: 幻想曲 八長調 op. 17
Schumann: *Fantasy in C major op. 17*

ストラヴィンスキー: 「ペトルーシュカ」からの3楽章
Stravinsky: *Three Movements from "Petrushka"*

ブラームス: パガニーニの主題による変奏曲 op. 35
Brahms: *Variations on a Theme by Paganini op. 35*

[料金]
S¥13,000 A¥10,000 B¥7,000 C¥5,000

主催: KAJIMOTO

活力とモチベーションに満ち、生まれ変わったポゴレリッチを聴く

ポゴレリッチが、新しいプログラムを携えて来日する。実に楽しみだ。2000年代の、迷走を極めたスランプから抜け出し、生まれ変わった彼が聴けると確信するからである。しかも、(筆者の知るかぎり)ほとんど全てが新曲。これは彼が、楽譜に発見と喜びを見出していること、活力とモチベーションに満ちていることの証拠だろう。

リストやプロコフィエフ、ブラームスの超絶技巧曲が並んでいるが、むしろ注目すべきは、シューマンの「幻想曲」である。ドイツの奥深い森のようなロマンの世界、理想郷に遊ぶようなあの終楽章を、ポゴレリッチがどう弾くのか。彼は現在、「ピアノ協奏曲イ短調」にも取り組み、この8月にリトアニアで初めて弾く。つまりこの作曲家にコミットしているわけだが、我々が想像だにしないシューマンとなるに違いない。それを聴いて、「自分のイメージと違う」と感想を漏らすのは、おそらく間違っている。ポゴレリッチの演奏の楽しみとは、我々の常識を越えた、新たな解釈の地平を体験すること、そして「彼がなぜそのような解釈に至ったか」を考え、味わい尽くすことにあるのだから。

ピアノという楽器を愛する人、表現の新しい可能性を求める人に、この冬最もお勧めしたい、必聴のリサイタルである。

城所 孝吉 (音楽評論/ベルリン在住)

イーヴォ・ポゴレリッチ (ピアノ) Ivo Pogorelich, *Piano*



「芸術家は広く深く学ぶことが必要ですが、永遠に自分の信念を持ち続けることも大切です。—— イーヴォ・ポゴレリッチ」

焦元溥 著「ピアニストが語る！」(アルファペータ刊)より

1958年ベオグラード生まれ。22歳で参加したショパン国際コンクールで、あまりにも型破りな演奏のため本選前に落選となったことが論争となり、彼を天才と公言した審査員アルグリッチが帰国してしまった事件はあまりにも有名。しかしその後、圧倒的なピアニズムと個性でポゴレリッチが天才であることは誰もが認めることとなり、ピアノ界の異端児として圧倒的な人気を誇る。

数年間の療養期間を経て2005年に6年ぶりの来日を果たして以来、定期的に来日。いつも大論争を起こす中、特に2013年の来日公演では型破りな凄みの内にも統一された秩序があり、完全復活を果たしたことを聴衆に印象付けた。

今シーズンはロンドンのロイヤル・フェスティバル・ホールやパリのサル・ガヴオーでのリサイタルを予定している。

録音はドイツ・グラモフォンから数々の名盤を生んでいる。

ポゴレリッチ — 妥協知らず (2013年12月 仏・カデンツァ誌)

ポゴレリッチは間違いなくピアノ界の生きる伝説であり、比類なき個性をもつアーティストである。彼の芸術は熟考されたものであり、楽器を鳴らすということにおいて、またひとつひとつの音に意味を持たせるということにおいて、決して妥協しない。彼の芸術は、均一化してきているピアノの世界では際立っている。

(中略)

ポゴレリッチのピアノから生まれる奇跡的な錬金術。それはいかなる音楽的な要素においても、極上の洗練が、完璧なバランスで存在している。

ポゴレリッチ — 変容 (2013年1月 仏・ピアニスト誌)

ポゴレリッチのリサイタルは、時間からの超越、枠組みからの超越、違反、偶像破壊である。長い時間をかけて準備したプログラムをようやくステージにあげる、そういった種類のピアニストである。レパートリーを限って、1年に4〜5曲しかとりあげない。ポゴレリッチの楽曲分析の過程はほとんど神秘的ともいえる。ポゴレリッチは作曲家の本来の意図を取り戻すことを使命としている。

チケットのお申込み

カジモト・イープラス <http://kajimotoeplus.com/>
カジモト・イープラス 0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。ホームページからお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 239-894)
e+(イープラス) <http://eplus.jp/>
CNプレイガイド 0570-08-9990
ローソンチケット 0570-000-407
サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

twitter @kajimoto_News
facebook
tumblr
YouTube YouTube “kajimotomusic” で検索!

便利なケータイサイトもぜひご利用ください。
iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ 対応
チケットもご購入いただけます。



カジモト・イープラス

一般発売: 9/21(日) 10:00~

カジモト・イープラス会員限定先行受付: 9/11(木) 12:00~9/15(月・祝) 18:00 先行受付専用番号 TEL: 0570-06-9969[10:00~18:00(初日のみ12:00より受付)]

●やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承願います。
●未就学児のご入場はご遠慮いただいております。
●団体料金の設定のある公演もございます。詳しくはお問合せください。

KAJIMOTO 〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-25 河北ビル TEL: 03-3574-0550 <http://www.kajimotomusic.com/>